

台風19号被害の復旧状況について

四 竈 英 夫



〔質問〕未曾有の被害をもたらした台風19号の襲来から4カ月あまりが経過したが、その後の災害復旧について、災害の件数と復旧状況を伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕国の災害復旧事業として査定を受けているのは、公共土木施設で道路23カ所、河川8カ所の計31カ所である。

農業用施設としては、ため池2カ所、水路23カ所、道路5カ所の計30カ所である。

今後、詳細な測量設計を行い、令和2年度の工事発注に向けて手続きを進めていく。

そのほかの道路の土砂除去、水路の浚渫、路

肩復旧作業などは、重機借り上げや原材料供給などで作業を行なっているが、これら小災害については、2月18日現在で852カ所となり、平成27年9月関東・東北豪雨時の約3倍となっている。

現在も地元業者に依頼して復旧作業を進めており、約330カ所が終了したが、被害件数が多く、復旧には令和2年度までかかる見通しである。

◎新型コロナウイルスへの対応について

〔質問〕新型コロナウイルスの感染が大きな問題となっているが、対策を伺う。

〔答弁〕〔市長〕国の新型コロナウイルス感染症対策本部設置を受けて、2月3日に市長を本部長とする対策本部を設置した。

県の保健所や白石市医師会とも連携をとり対応していく。

〔質問〕児童生徒の感染が大変危惧されるが、対応を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕2月28日に臨時校長会議を開催し、3月2日から春休みまでの臨時休業を決定した。

休業中は人の集まる場所への外出を避け、うがいや手洗いを行うとともに、感染が確認された場合は、ただちに学校へ連絡するよう要請している。

〔質問〕長期休業による学業の遅れについての対応を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕小学6年生については進学する学校で履修し、それ以外の学年は、新学期になってからその内容も踏まえて履修することとしている。

なお、卒業式は従来の形式では行わないこととした。

工業団地造成について

菊 地 忠 久



〔質問〕(仮称)白石中央スマートインターチェンジ周辺に工業団地を整備する方針が示されているが、現時点でどのようなブランドデザインを描いているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕周辺開発は新たな工業団地のみならず、スマートインターチェンジ整備による交通便利性を最大限発揮できる新たな拠点施設の整備など、いろいろな未来地図を描いている。

「住みたいまち、住みたいまち、市民の笑顔あふれる白石」の実現のために欠かせない施設であると同時に、地域

ニーズに十分に配慮されるものでなくてはならないと考えている。

〔質問〕具体的にどのような施設を構想しているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕交流人口、関係人口の増大を考えた場合、本市のさまざまな情報を発信できる施設の他、健康寿命の延伸が非常に重要であることから、市民の健康が増進されるような施設も有効ではないかと考えている。

〔質問〕工業団地の整備とともに、そこで働く人たちの新たな宅地も整備することが、移住・定住と地域の活性化には重要であると考えているが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕従業員の宅地確保は、誘致交渉において大変重要であ

ると認識しているが、現時点では工業団地の具体的計画が決定していない。

スマートインターチェンジ周辺整備計画の中で、新たな工業団地整備を念頭に宅地確保の可能性を検討していきたい。

〔質問〕スマートインターチェンジ、工業団地、宅地整備は3点セットであると考えているが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕3点セットで進めるとなれば、莫大な事業費となってくる。

宅地整備は臨むべき政策と考えるが、民間の動きも注視しながら、造成を民間の力でできないか、積極的に企業誘致と併せて働きかけていきたい。

◎その他の質問
◎第六次総合計画について

◎浸水対策について
◎ゼロカーボンシティ宣言について